

第 78 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第七八回 2015 年 5 月 9 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎） >

参加者：井端、大野、木村、夏目、浜田、宮川、山本、渡邊（8 名）

1. テーマ：再生企業の分析－日本風力開発株式会社の場合－

- ・報告者：渡邊繁生
- ・配付資料：6 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、日本風力開発株式会社（以下、風力開発とする）の収益性分析を行い、再生の状況を考察した。2014 年 3 月期連結の ROE_{at} は 4% である。また、 I の数値は 2% であることから、利子相当部分は一般的な上場企業と比べて高いと分析した。しかし、元本回収等を考慮すると、 ROE_{at} は低い値であると考察した。次に、財務レバレッジについては、 ROA よりも ROE_{bt} の方が高いことから、負債の運用効率が高いと分析した。また、 ROA を構成する M と T については、 M の値は 22% と高い値であり、利益率を確保できているといえるが、 T は 1 を大きく下回り、資産の効率的利用が出来ていないと推測した。 ROA のマイナスについては仕掛品を利用して、金額を低くすることで赤字期間の短縮化の議論が生じた。以上のことから、風力開発は負債を効率的に運用しているものの、一方で入金返済期限猶予について取引金融機関と協議を行っている点から、負債の管理に疑義が生じているため再生していないと判断した。

2. テーマ：企業価値評価モデルの類型に関する一考察－裁判の争点による類型を中心に－

- ・報告者：夏目拓哉
- ・配付資料：18 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、危機管理システム研究会第 15 回年次大会報告のための事前報告である。日本において、企業価値の評価方法、株式価格等を巡る訴訟議論が増えている。その一例として本研究ではレックス・ホールディングス事件等をあげ説明し、今後も企業が裁判の当事者になる可能性は十分にあると指摘した。とくにレックス・ホールディングス事件の場合では、企業価値の評価方法を巡り、当初企業の想定した株式価格の算定を上回る金額の判決がある。すなわち、企業価値の評価方法を巡る裁判において当初の想定と異なる価格決定方法が採用され、企業価値の評価額に大幅なズレが生じるため、企業におけるリスクであると考えた。そこで本報告では裁判事例をもとに、企業にリスクの少ない企業価値の評価方法を選択することで、企業のリスクを抑えられることを考察した。くわえて、企業価値評価モデルの採用基準が明確ではないことから、裁判目的に応じた企業価値評価モデルの類型化を示した。

3. 今後の予定について

- ・2015 年 6 月 6 日（土） 第 15 回年次大会事前報告 高市先生、夏目
- ・2015 年 6 月 13 日（土） 危機管理システム研究会第 15 回年次大会（於：立教大学池袋キャンパス）
- ・2015 年 7 月 4 日（土） 分析企業－江守グループホールディングス株式会社－ 井端先生
- ・2015 年 8 月 1 日（土） 分析企業－株式会社アイレックス－ 宮川先生
- ・2015 年 9 月 分析企業－株式会社太陽商会－ 夏目
- ・2015 年 10 月 分析企業－株式会社エナリス－ 浜田先生
- ・2016 年 3 月 分析企業－浜井産業株式会社－ 渡邊先生
- ・2016 年 4 月 分析企業－クボテック株式会社－ 依田先生
- ・2016 年 5 月 分析企業－セーラー万年筆株式会社－ 木村先生

（文責：夏目拓哉）